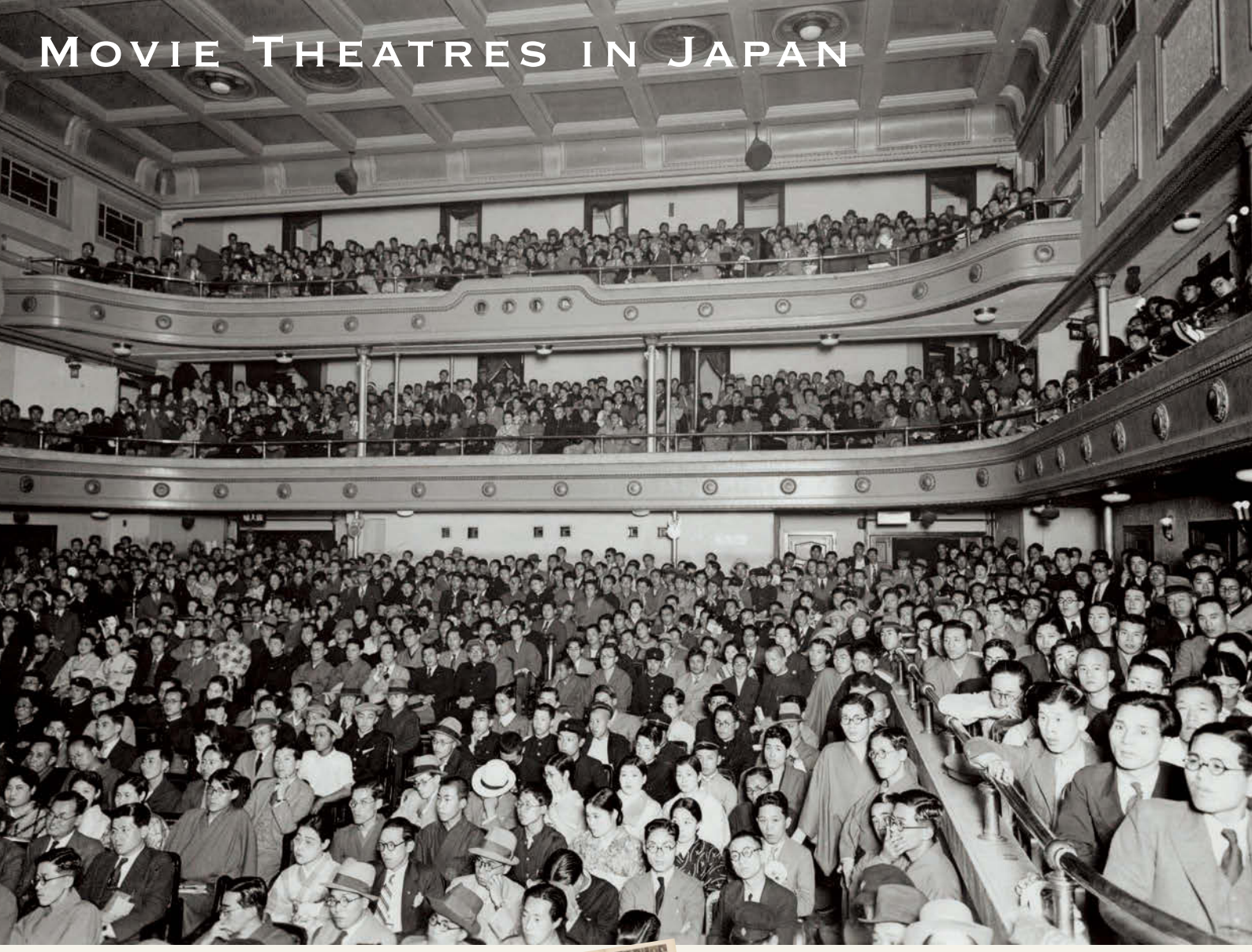
MOVIE THEATRES IN JAPAN



日本の映画館

展覧会

NFAJ
国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

2022.4.12[火]-7.17[日]

＊月曜日、5月24日（火）～5月27日（金）は休室です。

国立映画アーカイブ展示室（7階）

開室時間：午前11時―午後6時30分（入室は午後6時まで）
　＊毎月末の金曜日のみ開室時間を午後8時まで延長いたします。（入室は午後7時30分まで）
　＊会期および開館時間等に変更がある場合はホームページでお知らせします。
料金：一般250円（200円）／大学生130円（60円）／65歳以上、高校生以下及び18歳未満、
　障害者（付添者は原則1名まで）、国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料
　＊料金は常設の「日本映画の歴史」の入場料を含みます。　＊（ ）内は20名以上の団体料金です。
　＊学生、65歳以上、障害者、キャンパスメンバーズの方は入室の際、証明できるものをご提示ください。
　＊国立映画アーカイブが主催する上映会の観覧券（半券可）をご提示いただくと、1回に限り団体料金が適用されます。
　＊2022年5月18日（水）「国際博物館の日（毎年5月18日）」は、無料でご覧いただけます。
主催：国立映画アーカイブ　協力：株式会社チネチッタ、北九州市松永文庫
国立映画アーカイブホームページ　www.nfaj.go.jp/
Twitter：@NFAJ_PR　Facebook：NFAJPR　Instagram：nationalfilmarchiveofjapan

【新型コロナウイルス感染症拡大予防のため】マスクの着用のない方（2歳未満は除く）、体温が37.5℃以上の方は入館をお断りいたします。

図版（上から右下）　道頓堀 弁天座（1936年）　『俳星玄蕃』（1916年）ポスター／『キートンの結婚狂』（1929年、エドワード・セジウィック&バスター・キートン共同監督）ポスター／「全國活動寫真辯士番附」（1914年）
すべて国立映画アーカイブ所蔵

日本の映画館

いま全国の映画館は、一か所に多くのスクリーンを持ち効率的経営を行うシネマコンプレックス（シネコン）が主流になり、映画が娯楽の王者だった時代の豪勢な大型劇場や、どの都市の街角にもあった小さな映画館の多くは姿を消してしまいました。東京浅草に日本初の映画常設館が誕生してから120年近く経ちますが、その間、私たちはどんな空間で映画を楽しんできたのでしょうか。

「映画館で映画を見る」という何げない行為も、震災、戦争、復興、経済成長といった社会情勢や、人々の暮らしのモードの変化とともに移り変わってきました。この展覧会は、映画館の写真、プログラム、雑誌・書籍、実際に映画館で使われた品々などを通して、映画館の誕生、映画興行の発展期からミニシアターの時代まで、シネマコンプレックス登場以前の日本の「観客の映画史」に迫ります。とりわけ、往年の貴重な興行資料を軸に、二つの大都市（川崎・北九州）の例を通して、映画館と人々のかかわりを示すとともに、建築としての映画館の変遷や、人の目に触れにくいフィルムの映写という技能にも着目します。

インターネット配信による鑑賞がますます根づき、また新型コロナウイルス感染症のあおりで映画館運営が厳しさを増す現在、本企画は、映画館に人々が集うことの意義を再び確認するとともに、映画の持つパワーを映画館という場所から捉え直す好機となるでしょう。

Today, most movie theaters in Japan are multiplexes, economically efficient facilities that fit many screens into one location. All but gone are the large, grand theaters of the days when movies were the king of entertainment and the small movie houses found in just about every city. Nearly 120 years have passed since Japan's first permanent movie theater opened in Tokyo's Asakusa district. How have the spaces for enjoying movies changed since then?

Through earthquakes, war, reconstruction, and economic prosperity, the mere act of "watching a movie in a theater" has evolved with the nation's shifting social landscape. Changes in the ways people live their lives have also left their mark. This exhibition examines the "history of movie audiences" in Japan before the advent of the multiplex–from the birth of the Japan's first theaters and the film industry's development to the era of the "art house"–through cinema photographs, programs, magazines and books, and actual movie theater artifacts. It presents precious entertainment materials from the past to illustrate the relationship between movie theaters and audiences, using two major cities (Kawasaki and Kitakyushu) as examples. And it gives special attention to the transformation of movie theater architecture as well as film projection skills that are ordinarily behind the scenes.

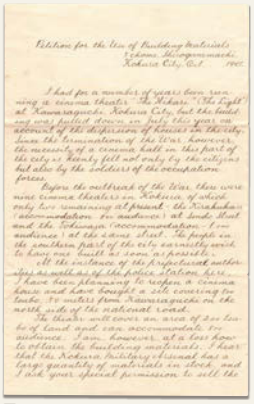
More and more, online streaming is becoming the preferred way of enjoying movies. Meanwhile, the movie theater business faces difficult times amid the COVID-19 pandemic. In that context, this exhibition provides an excellent opportunity for becoming reacquainted with what it means for people to gather in movie theaters and for reassessing the power of film through the movie theater experience.

1

2

3

4


6

7

5

8

9

❶ 浅草六区電気館前ステレオ写真［部分］（1905年頃）個人蔵
❷ 日暮里 第一金美館（1922年頃）　写真提供：株式会社チネチッタ
❸ 六区活動写真街模型　東京都江戸東京博物館所蔵
❹『椿姫』（1927年、村田実監督）ポスター Ⓐ
❺ アクメ商会映写機カタログ（1931年）Ⓐ
❻ 映画興行主中村上から占領軍への映画館建設物資使用の陳情書（1945年）北九州市松永文庫所蔵（中村上コレクション）
❼ テアトル東京（1952年）　写真提供：東京テアトル株式会社
❽ 千日前 OSスバル座（1953年）　写真提供：貴田明良氏
❾ エキプ・ド・シネマNo.1『大樹のうた』（1959年、サタジット・レイ監督）パンフレット Ⓐ
Ⓐ：国立映画アーカイブ所蔵

展覧会の内容

映画館の歴史を総まくり

映画興行発展の象徴となった東京浅草六区、戦前期の映画館建築、劇場が発行したプログラム・雑誌、戦時下の映画館の状況、フィルム映写、大型劇場が開場した戦後の映画黄金期、映画館を飾った絵看板、日本各地の映画館、1980年代のミニシアターブーム、映画館をめぐる本といった多彩なトピックで日本の映画館の歴史をたどります。

特別コーナー〈ある街の映画館〉

① 東京から川崎へ ～映画館「チネチッタ」の100年
② 北九州と興行主・中村上（じょう）～松永文庫所蔵資料より

川崎市で映画館をメインとする事業を展開し、今年創業100周年を迎える株式会社チネチッタ（旧美須興行）と、北九州市の映画・芸能資料館松永文庫が所蔵する映画興行主の旧蔵資料が、映画館が人々の日常の暮らしに寄り添ってきた時代を描き出します。

関連イベントを実施する際は、ホームページでお知らせいたします。

マスク着用のない方（2歳未満は除く）、体温が37.5℃以上の方は入館をお断りします。

【当館の新型コロナウイルス感染拡大防止策】
＊来館者全員への検温を実施。＊館内各所に手指用消毒液を設置。＊清掃・消毒を強化。＊展示室内の換気を強化。＊スタッフはマスク・手袋等を着用して対応。＊受付等の対面場所に飛沫ガードの設置。

【ご来館の皆様へのお願い】
＊発熱や風邪などの症状がある方は、来館をお控えください。＊館内ではマスクを常時ご着用ください。＊館内で体調を崩された場合は、スタッフにお知らせください。＊こまめな手洗いや手指の消毒にご協力ください。＊入退場やご観覧の際は、互いに適切な距離を保つようお願いいたします。＊展示室内での会話はお控えください。＊ロビー等での飲食は、蓋の閉まる飲み物以外は禁止にさせていただきます。＊感染発生時の入館者追跡のため、ご自身で入館日時の記録をお願いします。その他、感染症防止に関する当館の指示をお守りいただきますようお願いいたします。

国立映画アーカイブ
National Film Archive of Japan

長瀬映像文化財団
国立映画アーカイブは長瀬映像文化財団の支援を受けています。

〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6
お問い合わせ：ハローダイヤル 050-5541-8600
国立映画アーカイブホームページ
www.nfaj.go.jp/

交通
▶東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
▶都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
▶東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
▶JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分